

# 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

## 分科会 1 第 2 回 議事録

### (開催要領)

1. 開催日時：令和 4 年 7 月 21 日（木）14:00～15:00

2. 場 所： ウェブ形式開催

3. 出席者：

#### <担当幹事（発言順）>

|       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 井澤 徹  | 特定非営利活動法人新公益連盟 孤独・孤立担当            |
| 大空 幸星 | 特定非営利活動法人あなたのいばしょ理事長              |
| 今井 紀明 | 特定非営利活動法人新公益連盟<br>(認定NP0法人D×P理事長) |

#### <構成員>

株式会社グラファー、NP0法人青少年自立援助センター、ホームスタート・ジャパン、認定NP0法人ReBit、特定非営利活動法人特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構、特定非営利活動法人 LightRing.、(一社)日本経済団体連合会、全国高等学校長協会 など 計38名

#### <事務局>

|      |       |                     |
|------|-------|---------------------|
| (進行) | 大西 連  | 内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与  |
|      | 山本 麻里 | 内閣官房孤独・孤立対策担当室長     |
|      | 榊原 毅  | 内閣官房孤独・孤立対策担当室次長    |
|      | 石川 賢司 | 内閣官房孤独・孤立対策担当室参事官   |
|      | 田村 真一 | 内閣官房孤独・孤立対策担当室参事官   |
|      | 澤瀬 正明 | 内閣官房孤独・孤立対策担当室参事官   |
| (司会) | 吉川 晃  | 内閣官房孤独・孤立対策担当室参事官補佐 |
|      | 高橋 範充 | 内閣官房孤独・孤立対策担当室参事官補佐 |

### (議事次第)

1 開会

2 議題 (1) 経過説明  
・分科会 1 について  
(2) 意見交換  
・③相談者（相談を受ける人）になりうる層  
(3) その他

3 閉会

○司会 官民連携プラットフォーム分科会 1 の第 2 回を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中を御参加いただきまして、ありがとうございます。

本日の司会を務めます事務局の内閣官房孤独・孤立対策担当室の吉川と申します。よろしくお願いいたします。

本日の分科会はZoomによるオンライン開催としておりまして、孤独・孤立対策担当室のユーチューブアカウントでの動画配信もしております。

本日の流れを説明いたします。2 ページを御覧ください。初めに事務局より経過説明をいたしまして、続いて担当幹事より分科会 1 について説明をした後、14 時 7 分頃より意見交換に移ります。終了は 15 時頃を予定しておりまして、こちらに 16 時 55 分から次回に向けた連絡とありますが、14 時 55 分の誤りですので訂正いたします。

それでは、経過説明について申し上げます。前回御参加いただきました構成員の皆様には繰り返しとなりますけれども、分科会は、孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム規約第 21 条で分科会等を設置できると規定しており、さらに分科会に関しまして必要な事項は分科会規程で定められております。プラットフォームのホームページでも御覧になれますので御参照ください。

3 ページ、この分科会 1 についてですが、担当幹事が特定非営利法人あなたのいばしょ（SNS相談コンソーシアム）、特定非営利法人新公益連盟となっております。この幹事団体との検討におきまして目標を設定しまして、「声を上げやすい・声をかけやすい」社会の実現を目指し、孤独・孤立についての理解・意識を浸透させつつ、①の制度を知らない層、②の制度は知っているが相談できない層、③の相談者（相談を受ける人）になり得る層となっております。③につきましては（相談を受ける人）と表記を分かりやすく前回から変更しております。今回は③相談者になり得る層につきまして意見交換をいたします。

前回は①制度を知らない層、②制度は知っているが相談できない層、この意見交換を行い、様々な御意見をいただきまして、ありがとうございました。この概要について 5 ページにまとめております。それぞれの御意見を御参照いただければと思います。

また、本日のプログラムの 14 時 35 分からの全体を通した意見聴取は、①の制度を知らない層、②の制度は知っているが相談できない層への御意見もお伺いできる時間として用意しております。よろしくお願いいたします。

それでは、経過説明とプログラムの説明は以上となります。

続きまして、分科会 1 についての説明を御担当幹事よりお願いいたしたいと思います。新公益連盟様からでよろしいでしょうか。お願いいたします。

○井澤氏 新公益連盟の井澤でございます。

資料の 4 ページで御説明をさせていただきたいと存じます。先ほど内閣官房さんからもお話がございましたが、この分科会 1 「声を上げやすい・声をかけやすい」社会の実現に向けた取組につきましては、対象を 3 層に分けて議論をまいりました。この表の一番左が 3 層でございまして、前回は①の制度を御存じない層、そして、②の制度は御存じだ

が相談できない層について主として御意見を頂戴した次第です。

これまでの主な御意見について改めて押さえてまいりますと、まず対象の①でございますけれども、制度を御存じない層につきましては、必要な情報が届くようにするという点で、記載にありますような自治体窓口など日常のタッチポイントで気づき、つなげることの必要性などについて取組事例も交えて御意見を頂戴いたしました。そして、制度や情報に触れる機会を増やすという点については、メディアや企業、全国団体などをいかに巻き込んでセクターを超えて力を結集できるかなどが重要であるといった御意見を頂戴しております。そして、ポータルサイトなど公共機関のホームページに記載をするという点については、既にあるワンストップの「あなたはひとりじゃない」のさらなる活用などについて御意見をいただいております。また、学校や職場、地域などで学ぶという点についてでありますけれども、特に文化や教育まで深掘りして対策を打つことの必要性について御意見を頂戴しております。

次に第2層、制度は御存じであるが相談できない層については、相談へのハードルを下げることの必要性ということで、こちらは分科会3で御議論いただいております統一相談ダイヤルの構築、さらには2番目、相談できる社会環境づくりということで、イベント、キャンペーンによる周知などに加えて、宅配あるいはアウトリーチ型の食支援といった日常の中でのつながり、そして、相談機関とつなげることの有効性などについて御意見を頂戴しております。また、スティグマをいかになくす、減らすかという点についても様々な御意見を頂戴した次第でございます。

そして、本日の主たるテーマはこの第3層、相談相手、相談を受ける人になる層ということでありますけれども、こちらについては社会的理解や関心を高めるということで、第1層とも関わりますが、AC広告などの広告、イベントやキャンペーンによる周知について御意見をいただきました。さらには関われるタイミングやきっかけをつくるということについては、なぜ関わりが薄いのか、その真因まで遡って学校教育などで支え手になる方法を学ぶ、周知する機会をつくる必要性について御意見をいただいております。さらに最後の段でありますけれども、相談者になることをためらう人の被害をなくすという観点では、身近な実践者の事例の紹介、孤独・孤立の理解者を増やすサポーター養成講座のような仕組みの検討、さらにはゲートキーパーなど既存の制度の活用充実などについて例示しておりますので、ぜひ皆さんの活発な御意見、お寄せいただきたいと思っております。

冒頭の経過説明は以上でございます。

○司会 御説明ありがとうございました。

この後、意見交換に移りたいと思います。

それでは、大西政策参与よりよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

○大西政策参与 皆さん、こんにちは。大西です。政策参与を仰せつかっております。よろしくお願ひします。

前回出られた方と今回からの方がいらっしゃるかと思いますが、前回出られた方は前回

同様に、今回A、Bということで意見交換を希望してAで登録していただいた方はまず優先的に積極的に御意見をおっしゃっていただけたらということと、Bで出していただいた方もぜひ御発言等を積極的にしていただけたらということと、チャット欄を使っていたり、Zoomの手挙げの機能を使っていたりして積極的に意見交換できたらと思っております。今回からの御参加の方もいらっしゃるかと思いますが、本当にラフな意見交換の場だということで、ぜひ御自身の活動の範囲の中でこういうことが必要なのではないかという御意見等をいただければとてもうれしく思いますので、よろしくお願いします。

今、井澤さんから御紹介がありましたが、かなり幅広いテーマです。相談の受け手になる方、既に望むと望まざるとにかかわらず受け手になっている方もいらっしゃるかもしれませんが、そういった方に向けてどういったことができるのか。それから、専門家の人たちに向けた声かけもここにも含まれるかもしれません。人材育成的な観点も含まれるかもしれません。今回、前回同様に、かなり幅広く多くの方の御意見を伺うということで想定をしておりますので、その旨を御理解いただいた上で、ぜひ忌憚のない御意見をいただけたらと思っております。

早速なのですけれども、前回御参加いただいた方は何となくこんな感じだったねというのがイメージできるかと思うので、どなたからか御意見をということではなかなか挙がらないかと思ったりもするので、こちらからAで出していただいた方に振ってしまおうかと思っております。

どうしようかな。ReBitさんがいらっしゃるから、中島さん、もしよかったら最初にすみません。事前に何の前振りもしていなくて、お願いしてもよろしいでしょうか。お願いします。

○中島氏　ありがとうございます。ReBitの中島潤と申します。

今回初めての参加ということで緊張しているのですが、お話しさせていただけること、大変ありがたく思っています。今回のテーマにおいて相談者になることをためらう人の被害をなくすという部分、まさにReBitが取り組んでいきたいと思っているところとも重なるなと思ひまして、意見を出させていただきます。

ReBitでは、学校の先生方に向けて適切な支援ができるようにするためのサポートと、キャリア支援を行っている皆様に対してLGBTQの支援もできるようになるようにするための養成講座の提供を行っているのですけれども、その中で実際に寄せられた声として、私たちはLGBTQの専門家ではないので支援ができないと思いますとか、どこまで知ったら支援ができると言ったらいいのかが不安ですという声がありました。そういったことに関しては、LGBTQの相談は特にLGBTQについて相談したいという形で寄せられるだけではなくて、教育相談の中や貧困相談の中、若者支援の相談の中、キャリア相談の中などで、LGBTQに関してもこのように困り事があって孤独・孤立しているという事例が話されることもあるかと思ひますので、既に支援を行っていらっしゃる方々が追加でどんな情報を持てば安心して支援ができると感じていただけるだろうかという点をぜひ皆様と考えたいと思っております。

ReBitが既に実践していることとしましては、教育現場で先生方に使っていただけるハンドブックの作成ですとか、キャリア支援者の皆様に対して無償で御提供できる自学教材の作成などを行っているのですが、そういった情報提供を通して、私もここまでだったら知っているし、支援もできるのではないかということを既に支援の現場にいらっしゃる方々に感じていただけるような取組を、ぜひ皆様とも御一緒に行っていけるとうれしく思っております。

こんな形のお話で大丈夫でしょうか。

○大西政策参与　もちろんです。ありがとうございます。

すみません。この感じでぜひほかの方にも御意見を伺えたらと思うのですが、チャット欄でも手挙げでも出していただけたらと思いますが、Aで出していただいた方を先に振ってしまおうかと思いますが、グラファーの佐藤様、お話しできますか。お願いしても大丈夫ですか。急に振ってしまってすみません。

○佐藤氏　大丈夫です。初めましての人もいらっしゃると思います。グラファーの佐藤まみと申します。

ちょっとだけ自己紹介をさせていただきますと、私は心には鬱とPTSDで自殺未遂の経験があったり、体には筋肉の指定難病で今、介護ベッドで仕事をしていたりとか、子宮の問題があったりします。生育環境もちょっとあれで、いろいろな種類の家庭内暴力がある家庭で育ち、家族全員が人付き合いがほとんどなく、社会的に孤立していたと思います。

こんな状況なので、結構日常でつらい気持ちになる出来事やトラブルが多発しがちなのですが、まず、キャッチコピーについて、AC、政府広報だったりとか、キャンペーンをするときの表現の仕方とかについて意見があって、お伝えできればと思います。よく相談は恥ずかしいことではないかというキャッチコピーがあったりするので、そういうキャッチコピーを聞くと、そんなことをわざわざ言わないといけなくらい社会には恥ずかしいことだとか、そういう前提や認識があるのかと怖くなってしまったりして、もし自分が頼りたい人が恥ずかしいと思っている人だったらどうしようみたいな感じで、自分で頑張らないといけなくないかなと思ってしまったりしたのです。これは確かに一個人の意見なのですが、広告やキャンペーンをするときとかは、本当に検討プロセスの中で当事者を傷つけるものではないのかとか、どういう行動を目的にこのキャッチコピーにしているのかとか、そのキャッチコピーで本当に達成できるのかということの検討を、当事者にたくさん意見を聞きながらしてもらえたらうれしいと思いました。

すみません。頭を整理してからもう一回話します。失礼しました。以上です。

○大西政策参与　ありがとうございます。

こちらこそ、ぜひ一度話された方でも言いそびれたよとかがあったら全然また声をかけていただいて構いません。今、チャットにも書きましたが、手挙げでもチャット欄でも、Bで書いてくれた方でもぜひ御意見をいただけたらと思いますし、幹事団体の大空さん、今井さん、井澤さんには適時出なくなったら振っていくので、よろしくお願いします。

あと、Aで出していただいた方だとホームスタートの神代（カミシロ）さんですか。お名前を読み間違えたらごめんなさい。もしよろしければ発言できる環境でしたらぜひお願いします。

○神代氏 神代（カミヨ）と申します。よろしくお願いいたします。

○大西政策参与 ごめんなさい。お名前を間違えました。よろしくお願いいたします。

○神代氏 大丈夫です。変わった名字なもので。

前回出ておりませんで、ホームスタート・ジャパンのNPO法人の理事の一人として、参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

勝手がよく分かっていないところもあるのですが、簡単にまず自己紹介させていただきますと、家庭訪問、妊娠期やあるいは新米ママの家庭に先輩ママがボランティアで訪問して、何か特別なことをするというよりも傾聴したりとか、一緒に家事をしたりとか、子供と一緒に遊ぶとか、そういうことをすることによって新米ママのいろいろな不安を取り除いたり、子育ての不安を減らしたり、全部が全部ではないのだけれども、結果としてある種の虐待予防的な効果を持ったり、産後鬱の予防的な効果を持ったり、もっと地域とのつながりみたいなもの、人とのつながりをつくっていくみたいなこと、非常にいろいろな意味があるのですけれども、そういう活動をしています。

先ほど発言を聞いていて思ったのですけれども、相談しても大丈夫というのは、相談をする側もそうだし、相談を受ける側も何となく自己責任的な考え方は非常に強くて、おせっかいという言葉がいいのかどうか分かりませんが、おせっかいするのもおせっかいされるのも本当はもっと自由でもっとたくさんあったほうがきっと生きやすい世の中になるはずなのだけれども、おせっかいを頼む側も遠慮があったり、頼んではいけない空気があるし、する側もしてはいけないみたいな、踏み込んではいけないみたいな感じがどこかにあると思っています。そういうものをより解消できるようになっていけば、ホームスタートの例でいえばよりボランティアとして、先輩ママとして新米ママを気楽に助けに行くというのはちょっと違うのですけれども、友達になるみたいな、結果的に助けにもなるみたいなことがもっと組織的にできるのではないかと考えていて、古い言葉でもあるので、本当におせっかいという言葉がいいのかどうか分かりませんが、先ほど発言に出ていたようにどういうメッセージで、意味としてはおせっかいするのもされるのも全然もっとあっていいし、もっと気軽にできませんかみたいな空気ができると、相談もしやすいしされやすいみたいなことができるのかと思いました。

すみません。長くなりました。

○大西政策参与 ありがとうございます。

Aで出していた方は一通り指していきたいと思うのですけれども、今日、Bと書いてくださっているのですが、登録ではAになっているNPO法人青少年自立援助センターの河野（カワノ）さん、河野（コウノ）さん、これもお名前が間違っていたら申し訳ないのですけれども、発言できる状況だったらもしよかったらお願いしてもいいですか。

○河野氏 どうもこんにちは。青少年自立援助センターの河野（コウノ）と申します。

うちの法人なんですけれども、40年ぐらいひきこもりの支援をしております、今日はひきこもり支援畑から御意見というか、今、必要かなと思うこと、的が外れてしまっているかもしれないんですけれども、どちらかというとひきこもり、いろいろな支援があつて、つながってくる方はいいいのですが、保護者も当事者も自らつながってこれない方々もかなりいらっしゃいます。我々はアウトリーチとかもやっているんですけれども、入り口になるのは御家族だったりするのですが、長期化するとそういう支援に対する諦めであつたりとか、現状に対する諦めを持っていらっしゃる方は結構多くいらっしゃいます。今さら何をやっても難しいなと。それが8050問題とかにつながっているのかと思うんですけれども、まずは相談できる場はいっぱいあるわけで、実際に相談の中身はどういうものがあるのか、具体的にそこに相談したら何につながっていくのか、そういったものをしっかり表に出していく必要があるなと思っています。

ただ、支援現場でもそういう情報は少ないので、まず支援者であつたりとか、当然御家族、当事者の方にも届く必要はあると思うんですけれども、その具体的な情報、これは希望を持てる情報でないといけないと思うのですが、それをどう伝えられるのか。あと、本当にそういったものがどれだけあるのか。新規の施策などはなかなかつくるのが難しい時世になっていると思うので、ただ、今あるものを少しアレンジしていったりとか、幅を広げていけば、十分こういう引き籠もった方や孤立状態の方々の足がかりになるようなものはあると思います。我々のところでも若者支援を中心に若者サポートステーションであつたりとか、障害福祉分野の就労支援であつたりとか、こういったものをもうちょっといろいろ協議する場があつて、多少仕様を変えたりしていけば今までの予算の中でもうちょっと幅広くうまく利用できるものになるかと思っていますので、そういう福祉から就労まで横串を刺して議論できる場も並行して検討できる場が出来上がるといいのかと。そういうものも踏まえてどう情報を発信していくかということにつながってくるかと思っております。

雑駁なんですけれども、以上になります。

○大西政策参与 ありがとうございます。

佐藤さんは先ほどの続きですかね。よかったらそのままどうぞ。

○佐藤氏 ありがとうございます。

今、河野様がおっしゃっていた相談の内実をもっとブレイクダウンすべきだよねというのにすごく同意なので、ちょっとしゃべらせてください。支援者側、相談を受ける側も、当事者側も、相談はとても抽象的な概念なので、その具体的なアクションというか、どういう働きかけをしたら当事者の役に立つのか、困っている人にどういう働きかけをすればいいのかをもうちょっと分解して整理する必要があるのかと思って、それを今、チャットボットとかがあると思うんですけれども、一元化とか、一覧表みたいな感じでつくっていくべきなのではないかと思いました。

抽象的といっているけれども、どういうものなのかと考えているものがあるのですけれども、一言に相談といっても専門的な情報提供、例えば個別の事例、たくさん現場で見てきたので似たような境遇の子はどうしているのだよというのを教えられたり、アドバイスできたりとか、制度にすごく詳しくて紹介だったり説明ができますよというのがまずあったり、あとは傾聴メインで、不安な気持ちとか、ただ愚痴を聞いてほしいとか、つらい気持ちを聞いてほしいというところに専門性がある相談窓口もあると思っています。そういうものと、あとは具体的に制度を使うためのつなぎをする。例えばどういう制度が使えて、そのためにどれから、まず悩みを聞いて課題整理、優先順位をつけて、その一番トップのものから、これをするにはこの制度を使って、そのためにはこういう書類を取り寄せたりとか、調べものをする必要があったりとか、電話で窓口に行きやすいようにしたりとか、使うためのタスクの実行支援までしてくれる相談窓口があったり、たくさんあると思うのですけれども、今、言ったようなものを整理して、この相談窓口はどういうことができますよみたいなことをちゃんとデータみたいにすれば、当事者も、支援者側としても、あそこはこういうところができるからあそこにつなごうとかができるのではないかとすごく強く思っています。ありがとうございました。

○大西政策参与　ありがとうございます。

大体Aで出してくれた方はお話を聞けたかと思いますが、漏れていたらごめんなさい。積極的に声を出していただければと思いますが、幾つかここまでで論点が出たかと思いますが、私の雑な整理ですが、まず、専門家や支援機関同士の横連携の話も出てきたかと。いろいろな観点でつながっている部分があるので、相談によってはどういうものがあるのか、情報、ツールとか、そういったものが共有できたり、表に出ていくことはすごく大事なのではないかとという論点が出たかというところが一つと、当事者の意見を聞いたり、当事者の方が参画できる機会をつくることも論点で出たというところ。ボランティアであったりとか、ピアサポート的な関係の先輩、後輩のママという話もありましたけれども、そういう機会ができることによって接点が生まれるのではないかとということが出たりとか、ハンドブックとか、教材とか、そういったものがあることによって、より認知だったり、広がっていく部分があるのではないかと、そのような御意見もいただきました。

Aで今、御意見をいただいたので、ここからBで出していただいた方にも積極的に御意見をいただきたいと思うのですけれども、私のほうから振ってしまうので、今、しゃべれませんということならばパスしていただいてもいいのですが、この支え手の支援という文脈でいうと自殺対策でもかなり先行した事例があるかと思ひまして、ちょうど今日、Light Ringの石井さんが参加してくれているので。

先に大空さん、どうぞ。

○大空氏　前回に引き続いてありがとうございます。

幹事団体は我々と新公益連盟さんが務めておりますので、議論を一度振り返らせていただきたいのですけれども、皆さん、本当に様々な意見を出していただいて、大変ありがと

うございますというのがあった上で、今回第3層について、それぞれ事前に御説明したとおり、目指すものと現状で我々が考えられる対策例を幾つかお示ししていると思うのです。それぞれを合っているかどうか、マッチしているかどうか、そこをベースにぜひ議論いただいたほうが、皆さん、大変いろいろな御見識を持っていらっしゃるのでありがたい、勉強にはなるのですけれども、議論としてなかなか進んでいかないなという気もするので、今、ここを出させていただいているそもそも2つ目のセクションのところが足りないのではないかという御意見でもいいですし、2と3は合っていないのではないかという観点から、Bの方も御意見をいただけると大変ありがたいかと思います。

すみません、大西さん。

○大西政策参与 大丈夫です。ありがとうございます。

そうですね。この後、整理をするときにどこにどう当てはまっているのかなとか、ここはどう足りないということをおっしゃっていただけたほうが整理しやすいので、ぜひその観点でおっしゃっていただけたらと思います。

振った途中になってしまったのですけれども、Light Ringの石井さん、今、話せる感じだったりしますか。ちょっと厳しいかな。どうですかね。今、厳しいですかね。急に振って申し訳ないです。

○石井氏 ありがとうございます。

観点の部分がまだキャッチアップし切れていないかもしれないのですけれども、先ほどお話しいただいたように、専門窓口が何をしてくれるのか、期待値として整理することはすごく賛成です。ゲートキーパーの支援をする中でも線引きが難しく、全て抱え込んでつらくなってしまう人たちがたくさんいます。その中で専門家につなぎたくても、支援のつなぎをしてもらいたいが傾聴だけしてくださる専門家につないでしまって、これしかやってもらえなかったというような悩みを改めて持って帰ってきてくれるゲートキーパーもいたりするので、各支援機関が何をしてくれるのかということを具体的に示すとともに、そこに対応するスタッフの方がそれができるための研修を受けて、それぞれレベルアップしていくことも重要ではないかと考えています。

あわせて、私たちの観点から伝えると、傾聴してくださるということは極めて基本的なところになるので、具体的な制度につないでもらうとか、支援につなぐとか、そういったところをできるようになってもらうことが今後重要な観点ではないかと思っています。ほかに何か必要な論点があれば教えていただけたら幸いです。

簡単ではありますが、よろしくお願いします。

○大西政策参与 ありがとうございます。

そして、Aで出していたいた特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構の北村さん、ごめんなさい。振りそびれていたかもしれない。もし御発言いただけるようならば、特に相談を受ける人になり得る層に対してどういったことをやったらいいのかという観点からぜひ御発言いただけたらと思うのですけれども、北村さん、いけますか。Zoom

には入っていらっしゃると思うのですが、北村さん、聞こえますか。ちょっと厳しいかな。発言できそうな感じならばぜひ発言していただけたらと思います。

さっき大空さんが整理してくれたのですが、相談を受ける、相談相手になり得る方に対してどういうアプローチがあるのかというところで、社会的理解、関心をどう高めていったらいいのかとか、何か関われるタイミングをどうやってつくったらいいのか、それから、相談の担い手になることを積極的にしてもらうにはどういうことが必要なのか、そういう点からぜひお話しいただけたらと思うのですが、一旦幹事団体側から意見をもらおうかと思うのですが、D×Pの今井さん、よかったらここまでの議論を聞いた上ででもいいですけども、改めてこの論点で少し御発言いただいてもいいですか。急に振ってすみません。

○今井氏 ありがとうございます。D×Pの今井と申します。

③に書いてあるAC広告を出すとか、いろいろ挙げてきたのですが、言いそびれていることがあるなと思っていて、今、D×Pは現金給付支援を3700万ぐらいオンライン相談を通じてやっていたり、食料支援が6万5000食ぐらいですか、15歳から25歳の子たちに行っているのですが、相談を受ける人、D×Pの若年層でいうと15歳から24歳の単独世帯はそもそも総務省の国勢調査によって197万世帯ぐらいあるのです。そのうちの200万以下の収入の世帯は3割ぐらいあるのです。そうすると、60万ぐらいいると思うのですが、そのうちのD×Pは今1,000人ぐらいしかアウトリーチできていないというか、支援ができていないのです。だから、そのうちのどれぐらいが相談を受ける人になるかなと思ってまして、物量支援ではないのですが、一定程度例えば食料とか給付支援みたいところで、ある種取っかかりというか相談しやすさをつくってきた結果、3割ぐらいが今まで困窮の相談をしたことがなかった子たちが来たみたいな形になっているのです。なので、これ以外の話でいうと、物量による支援というか、これは予算が必要なので簡単な話では全然ないと思うのですが、ある種食料支援とか、そういった支援の具体的なものがきっかけで相談を受ける人がよりリーチしやすくなるとか、そういったことが結構あるのかなというのは思っていました。

ごめんなさい。振り返りではなくて、そういえばこういった論点も必要かと思って言ってみたという感じです。

○大西政策参与 了解です。

皆さん、少し混線している部分があって、冒頭の整理が悪かったかなということもあるのですが、どちらかというと今日は支援者まで行かないけれども支える人をどう増やしていくかみたいなのところをこのセッションでは議論したいなというところがあって、相談をする人へのアプローチは1番、2番のところで、そこもこの後に最後に全体を通してまとめてやれたらと思うのですが、なかなか混線している部分もあるので。

○大空氏 今、今井さんにおっしゃっていただいたことは大変重要なと同時に、この分科会1の正式名称が「声を上げやすい・声をかけやすい」社会に向けた取組の在り方に関

して検討するというので、孤独・孤立の重点計画の中に記載されているところなので、支援を求める、声を上げやすい、受け止める、かけやすい社会の実現に向けて何ができるかというところを今回は中心に皆さんで議論できるといいかなと思います。

佐藤さんが手を挙げています。

○大西政策参与 では、佐藤さんに行った後、フードバンク八王子さんをお願いしましょうか。

佐藤さんからお願いします。

○佐藤氏 ありがとうございます。

それでいうと、対応策としてAC広告を出すとかキャンペーンを出すとか挙げられていると思うのですが、その内容が重要になってくるのかと思っていて、例えば③の相談を受ける人に限っていえば、支援者側の知見、相談の具体的な支援内容をまとめて、こういう人にはこういう働きかけ、声かけの仕方がいいですよみたいな形だったりとか、その次のアクション、こういう人にはどのようにつなげたらいいいのかなという支援の方法みたいなものを啓発するみたいな内容だったらすごく効果的なのではないかと思いました。有名人が一人で悩まずと言っても、あまりそんなに相談する気にはならないので、その先というか、具体的な内容を周りの人も声かけしやすい、当事者もこういうことがしてもらえるのだというのが分かるような形でAC広告や広告、キャンペーンをしていただけたらすごくうれしく思います。

○大西政策参与 ありがとうございます。

では、フードバンク八王子の國本さん、よろしくお願いします。

○國本氏 皆さん、初めまして。フードバンク八王子の國本と申します。

簡単に自己紹介をしますと、八王子でどういうことをやっているかということ、一つは我々はフードバンクですから、食料を配布するパントリーという言い方をしますが、そういうパントリーの活動をネットワーク化して、八王子は広いので、パントリーのネットワークをつくっていきながら、それと同時に、八王子には子供食堂が28か所あります。その28か所の子供食堂のネットワークを使っていて、この2つのネットワークで、概念的な話ですが、地域でそういう食の2層的なネットワークをつくってこういうことをずっと考えながら活動しています。

子供食堂のネットワークとパントリーのネットワークというのは実はかなり性格が違って、子供食堂のネットワークは言わば地域の誰もが来られるところ、誰もが気軽に行ける場所という形で、いろいろな人が集まってくるわけですね。そういう子供食堂に集まるネットワークの背面を支えている位置づけのような意味合いでパントリーのネットワークがある。何で背面に回るかというと、子供食堂にはいろいろな人、困っている人も困っていない人も来るのですが、その中でなかなかヘビーなケースの人もいて、そういう人たちを背後にあるパントリーのネットワークが支えていく。これが地域行政などと絡みながら、いろいろな形で相談に乗るだけではなくていろいろな社会につないでいく、

そういうガイド的な窓口的な役割を果たしている。

大体以上のような構造を持っているのですけれども、現在のお話との関係でいくと、相談ができる人、相談を受け止める人という視点からいくと、もっと民間の可能性、地域、社会資源の可能性を開発すべきではないかと私はずっと思っていて、それは例えば具体的にいうと、子供食堂をどうつくっていくのかということとすごく深く関わっているところがあって、というのは、いろいろな支援でいえると思うのですが、一つは相談を受ける人と相談をする人、その2つがダイレクトに結びつくような場面があればいいのですけれども、実際には中間地帯をつくる。緩い意味での居場所であったりとか、そこに実際に行くかどうかは別にしても、そこにそういうところがあるというところで、いつかはそこに行ってみて、そこで誰かとつながって、しかるべき支援機関とつながっていったり、そういった中間地帯みたいなものとして子供食堂というものが機能する。パントリーもそうですけれども、そういう居場所。そこでやっている人たちは基本的に民間なのです。本当に地域のおじちゃん、おばちゃん、あるいは八王子にある団地の自治会のおじちゃん、おばちゃんであると。だから、相談者としていろいろなスキルを持っているとか、あるいはいろいろな訓練を受けているとか、そういったレベルに乗っている人たちではないのですけれども、でも、現実にはそういった地域のいろいろな人たちが実際に受け手となって、そういう人たちが孤立しているのではなくて、先ほど申し上げたような多層的なネットワークの中で、しかも地域行政とつながっている。そういう形で非常に面白いフロントエンドになり得るわけです。そういった視点から相談者になり得る人の層を考えていく必要もあるのではないかと思います。

以上です。

○大西政策参与 ありがとうございます。

地域のいろいろな担い手の人たちと一緒に、その人たちがなり得るのではないかとということなのではないかと思いました。

その観点で、岡山NP0センターの北内さん、いろいろな方を巻き込むというところでいうとNP0センターの取組も大きいのかとったりするのですけれども、いかがでしょうか。急に振ってごめんなさい。しゃべれますか。

○北内氏 ありがとうございます。

岡山NP0センターの北内と申します。私たち自身はいわゆる中間支援をしております、岡山県内で孤立であったり、困難を抱える御家庭を支援する団体さんの後方支援をさせていただいております。

今回の整理、すごく分かりやすく、目指されているところもよく分かるなと思っています。2番と3番について少し発言をさせていただきたいのですけれども、2番のほうで、相談を受けた団体さんにとっても、例えば「この相談はうちの団体だけでは受けきれない」というときに十分な対応ができなかったり、一度受けたもののどこにつないであげたらいいか分からなくてそこで止まってしまつてつながりが切れてしまうみたいなことが起

り、相談してくださった側も相談を受けた側も少し「もやっと」したものが残ったり、あるいは不信感のようなものが残るケースがあるかと思っています。先ほど佐藤まみさんが言われていたこととも近いかと思うのですけれども、地域の民間の資源であったり、行政の資源であったり、どんな支援がどこにあって、どんなことであったら受け入れられるのか、どこがつなぎ先になり得るのかみたいなことを、ぜひ受ける側も相談する側も見えるようにしていきたいと思っています。実際に今、岡山県内で私たちは27市町村の民間の資源の調査を洗いざらいやってみるということをやっている、そこで出てきたものをまたこちらでぜひ御紹介させていただければと思っています。

もう一点、3番の「相談者になり得る層」についてなのですが、こちらも「何かしたい」という方は多いと感じていまして、学生の方、主婦の方、あるいは企業の所属として専門性を発揮されるプロボノのようなボランティアさんですとか、教員を退職された方など、「NPOで活動したい」ということで御相談に来られることがあります。そういった方たちが十分に力を発揮して、相談を受ける側であったり支援者であったりとした役割を担っていただくためにも、一つはボランティア養成講座のような、適切に知識をつけていただいて、期待される役割をお互いに理解して、逆にボランティアを受け入れる団体側も「この方はどういう方だ」と理解するような機会をしっかりと設けることと、養成講座のようなものが終わった後の実際の活動に入る場面でのコーディネーターの役割もすごく大事だと思っています。小さい団体さんですとボランティアコーディネーターという役職を置いていないところもすごく多いかとは思いますが、受入れに慣れていないがゆえにせっかく来てくださった「相談者になり得たかもしれない方」が去って行ってしまったりといったことも起こりかねませんので、そういった面からもコーディネートと養成講座の両方の整備をして受け入れることが大事かと思っています。

以上になります。

○大西政策参与 急に振ったのにありがとうございます。

では、せっくなので、今、企業さんからのボランティアという話があって、企業というのもすごく重要なセクターかと思っておりますので、今日、せっかく経団連から池田さんが来てくれているので、もしよかったら御発言いただけたら、まさにSDGsとか社会貢献というものがかなり企業の関心と関わっているかと思うのですけれども、池田さん、お話しただくのは可能ですか。

○池田氏 経団連の池田でございます。よろしくお願いいたします。

私自身は孤独・孤立の問題の専門家ではないので、適切な発言ができるかどうか分かりませんが、皆さんがおっしゃっているように、専門の相談窓口がどこにあるのか、といった情報は大事だと思います。ただ、先ほどのご発言を伺って、そのような相談は専門の方でないと、対応が難しいと思いました。

一方で、もし企業で何かできるとすると、孤独・孤立に陥らないような予防的な措置ではないかと思っています。職場の中での挨拶から始まって、コミュニケーションを密にするこ

とが重要ですし、社員向けのボランティア活動を実施している企業もあります。業務上の上司・部下の関係だとなかなか心を割って話ができない場合もあるかもしれませんが、社員を対象としたボランティア活動を通じて、上司・部下といった関係を超えて、社員間の関係構築ができれば、孤独・孤立問題における一つの予防策になるのではないかと思います。

また、地域密着型の企業においては、例えば、郵便配達員や宅配便配達員の方々が、単に物を届けるだけではなく、積極的に挨拶や何げない会話を心がけることで、もしかしたら、孤独・孤立問題の予防的な措置、あるいは、深刻化を回避することができるかもしれない、と思いました。

非常に雑駁で申し訳ありませんが、私からは以上です。

○大西政策参与 急に振ったのにありがとうございます。まさに企業の取組もすごく重要なところかなというところで急に振らせてもらいました。

時間もあれなのですけれども、全国高等学校長協会の上村（ウエムラ）さん、上村（カミムラ）さん、お名前の読み方が間違っていたらごめんなさい。校長先生の協会ですね。合っていますね。もしよかったら御発言をいただければと思います。ありがとうございます。

○上村氏 全国高等学校長協会の上村（カミムラ）と申します。

なかなかこの問題、生徒の個人個人の状況が様々ですので、先ほどからお話がありましたようにどこに相談したらいいかが分かることが、学校の担任であるとか校長の立場からするとすごく心強いことになると思います。要するに、専門的に毎日関わっていらっしゃる方々と私どもは、本来的には直接的にそこがメインの仕事ではないということになりますと非常に情報のレベルの差があるものですから、そこをうまくリードしていただけるような情報がいただけるとありがたいと思っております。

以上です。どうもありがとうございます。

○大西政策参与 ありがとうございます。

いろいろな方に御発言をいただきましたけれども、相談を受ける人になり得る層に対するアプローチとして、一つは相談を自分が受けるようになったときに、専門的な相談を自分は受けられないからどうしようとなってしまうと当然相談を受ける相手になるのは難しいということもあると思うので、ある程度専門的なところのバックアップであったり、そういった場所とつながるような情報が見られることが大事だということがあったかなと。それから、養成講座であったりとか、また、受入れ体制みたいなものをちゃんとつくって、コーディネーターみたいなものも必要なのではないかな。また、そういう中で企業、学校を含めていろいろなセクターが巻き込めることがすごく大事なのではないかな。そのような御意見が出たかと思います。

時間もそんなにないので、3番プラスで全体の話も今日は交ざっているので、併せて全体を通じて改めて御意見を伺えたら何う形にして、今日はざっとそんな形にしようかと思

いましたが、大丈夫ですかね。違和感は特にはないですかね。

では、御発言いただいた方でも、いただいていない方でも、ここまででざっと御意見をいただきました。今の点をまた論点整理をさせていただきますが、①、②、③を含めて全体を通じて何となく見えてきた点もあるかと思いつつ、まだこれが言い足りないよとか、これをもうちょっと補足で言いたいとかがありましたら、ここからの5～6分ぐらいの時間の間でぜひ御発言をいただけたらと思っているのですが、手挙げでもチャットでもどちらでも大丈夫ですが、いかがでしょうか。チャットで書いていただいているのを追いかけていなくて、全部読めていなくてすみません。ここまでの議論の中で、特に皆さん、大丈夫ですか。

では、今までの議論を受けて幹事団体のメンバーにそれぞれコメントというか、補足してもらえたらと思うので、大空さんからお話しいただけないかと思います。お願いします。  
○大空氏 皆さん、ありがとうございます。チャットでいただいた御意見も後で全て我々のほうでも確認をして、目を通させていただきますので、ありがとうございます。

いただいた御意見の中で、例えば内閣官房でちょうど1年前に始めている「あなたはひとりじゃない」というチャットボットを中心に制度を紹介していくといったものがあつたりして、この議論のときに実はNPO向け、支援団体向けにもそういうチャットボットをつくったほうがいいのではないかという意見が一部出て、昨年度は難しかったのでできなかったということなのですが、もう少しそのような仕組みがあってもいいのかとも考えておりました。

佐藤さんからいただいたのかな。広告とかを出すときに芸能人を安易に使うのはどうなのだと僕もまさにずっと言っていることで、自殺対策がよく使ってしまうので、よく僕もお話しさせていただいて、厚労省は実は今年の自殺対策ポスターからはそういうことをなくして、少しずつ変わってきている部分も一部あつたりもするのです。ですから、仮に広告を出すことになるのであれば、いただいた御意見や表現の方法をぜひ当事者の方の意見も踏まえて考えていかななくてはならないのかと思っていました。

具体的な施策として何をやるのかについては、今後いただいた御意見を踏まえて検討していくことになるのですけれども、様々な考え方をお持ちの方、取組をされている方がいらっしゃると思いますので、なるべく皆さんに広く納得していただく形で、またしかるべき時期に御提示をさせていただいて、その際も忌憚なく様々な意見をいただければと思っております。連絡網みたいなものはなかったのかな。これの連絡網みたいなものがないから、それもまた別途考えるとして、気軽にぜひ御意見をいただければと思っております。ありがとうございます。

○大西政策参与 ありがとうございます。

確かに連絡網はないですね。これは私も前から思っていて。

○大空氏 Slackとかをつくれればいいと思います。

○大西政策参与 せっかくプラットフォームができて、事務局からの御連絡はできるので

すけれども、横同士のつながりがまだ足りていないので、これは早急に考えたいと思います。ありがとうございます。

今井さん、お願いしてもいいですか。

○今井氏 今日はどうもありがとうございました。

このプラットフォームで分科会を開いていて思うのですけれども、企業さんとNPOさんと官のほうも入っていて、非常にこのネットワークはすごく強いと思っています。今、連絡網の話とかもあったと思うのですけれども、何かしら打ち出したときにこの3つのセクターが連携して動いていくことに物すごく価値があると思いますし、いろいろな打ち手を出したときにより連携して動くことができるというのが一番の価値だと思っているので、その力を発揮できるように今後もしていくことができればと思っています。1団体とか、1社だけとか、官だけだとなかなか広まらない。特に孤独の問題は日本で一人一人に結びついている自己責任論みたいな考え方に結構根強く基づいていると思うので、でも、それを打破するために何かしらできればと思っております。

ごめんなさい。今日は僕は論点からずれて発言していましたが、今後も何か皆さんに提示しながらできていければと思っておりますので、よろしくお願いします。

○大西政策参与 どうもありがとうございます。

井澤さん、すみません。トリをお願いする形になります。

○井澤氏 支援を日常にいかに溶け込ませるのかというのはとても重要な論点だと思いました。先ほど経団連の池田さんが郵便配達を事例に出してくださっていましたが、ステイグマ対策としてもこの観点は重要で、前は日本生協連さんから宅配という日常のタッチポイントの中でのハイリスク層の見極めという事例紹介がありましたが、そこから支援機関にどうつなげていくのかという観点では、そういう企業や公益団体の皆さんがいかにサポーターとなり得るのかと。そして、サポーターの皆さんが支援を日常にいかに溶け込ませていくのが大変重要であると。その上では、相談者になり得る層対策について、サポーター制度みたいな制度はとても重要な論点であるなど改めて感じました。ありがとうございます。

○大西政策参与 どうもありがとうございます。

このプラットフォームの分科会の議論を受けて、どのような孤独・孤立対策に悩まれている方に対してメッセージ、情報を届けていくのか、キャンペーンも含めてやっていくのかということを議論していきますので、今日は本当にいろいろな発言、タイミング的に難しい方も多かったかと思いつつも、ぜひいろいろな方に関わっていただきながら議論する場をつくりたいと思います。なかなかZoomだと耳だけになってしまうよというので、感染状況などいろいろな状況が許せば対面でもやれるような機会もあってもいいかと思いつつ、それはまた事務局側とも調整したいと思います。膝詰めで話すことによって思いつくアイデアもあつたりと思ったりしますし、本当にあらゆるセクターの人たちが一緒にやれることがとても重要です、この孤独・孤立対策は、さっき幹事団体の皆さんがおっしゃ

ってくれましたけれども、どこかの団体がやることでもないし、どこかのセクターがやることでもないし、本当にあらゆる人たちが一緒に自分たちが持てる力を出し合って、何とか一人でも多くの方がつながりを得られるように、苦しまないようにということだと思うので、引き続き御協力いただけたらと思っております。

では、吉川さん、一旦お戻ししましょうか。大丈夫ですか。

○司会 それでは、そろそろお時間となります。御参加いただきました会員の皆様、担当幹事の皆様、大西政策参与、本日はありがとうございました。

ここで、内閣官房孤独・孤立対策担当室の山本室長と榊原次長より御挨拶があります。

山本室長よりお願いします。

○山本室長 6月に人事異動がありまして、6月28日より新しく孤独・孤立対策担当室長に就いております山本と申します。どうぞよろしくお願い致します。

直前は厚生労働省社会・援護局というところにおりましたので、そこで生活困窮の対策や自殺対策などを担当しておりまして、今は横滑りみたいな感じで参っております。このプラットフォーム、2月に立ち上がって、非常に短い期間ではありますがけれども、皆様、精力的に参加をしていただきまして、議論をしていただきました。ありがとうございました。多くの方が御指摘されたように、本当に多様なセクターの人たち、多様な経験をした人が集まって一緒に何かをつくっていくことは大変素晴らしいことだと思っております。意見の違いは当然あると思えますけれども、それをぶつけ合いながら、非常に大事なテーマですので、いいものをつくっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

○司会 ありがとうございます。

引き続き榊原次長よりお願いいたします。

○榊原次長 こんにちは。私、北波の後任で次長で参りました榊原と申します。よろしくお願い致します。

直前は厚労省保険局というところで医療の関係の仕事をしていました。また全く違う分野でございますが、いろいろ皆様に教えていただきながら積極的に頑張っていきたいと思えます。よろしくお願い致します。

○司会 ありがとうございます。

それでは、最後の御案内になります。次回はこれまでの意見交換での内容を集約した上で、全体のまとめという形で意見交換を行いたいと思えます。

以上をもちまして、本日の分科会1の第2回を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

#### 【Zoomチャット】

14:15:38 開始 大西連（もやい&政策参与）に 全員：

ぜひ、ご意見いただける方は、手挙げ機能を使っていただければと思います。

また、チャット欄でのご意見も募集しています。

14:23:10 開始 A:中島潤\_ReBit に 全員:

>河野さんのお話しに対して

希望が持てるような具体的な事例や情報を出していく、というのは、「相談を受ける人」にもニーズがある取り組みだと思います。

14:30:07 開始 A:中島潤\_ReBit に 全員:

相談を受ける人

14:31:36 開始 A:中島潤\_ReBit に 全員:

「相談を受ける人」がつかえる社会資源を可視化する、という取り組みや、支援する人同士がピアとしてケアしあえる場づくり（継続的な活動を支える取り組み）も有効ではないかと思います。

14:38:07 開始 A:神代 伸一 ホームスタート・ジャパン に 全員:

広告キャンペーン的なものを企画するのであれば、どういう切り口にするかが、本当に重要だという点は大いに賛成です。

14:40:45 開始 A:神代 伸一 ホームスタート・ジャパン に 全員:

大空さんから、「対象と目標と対策」について、こういう切り分け方、設定の仕方ではどうか意見を聞きたいとのことでしたが、私としては切り分け方には違和感はありません。（具体策が難しいのはあるとして）

14:43:29 開始 一社）北海道民泊観光協会：南邦彦 に 全員:

以下のような加算制度を拡充し

日ごろから各支援団体 連携を促すような仕組み

居住支援連携体制加算・地域居住支援体制強化推進加算

居住支援連携体制加算の取得単位

居住支援連携体制加算

35単位／月（体制加算） 35単位／1日 × 約10円／単位 × 利用者数  
（1事業所 20名の場合 350円×20名＝7千円程度）

地域居住支援体制強化推進加算

500単位／月（推進加算）

14:47:53 開始 A:中島潤\_ReBit に 全員:

企業の皆さまのお取り組みとして、啓発や研修の際に、職場内の課題を取り上げるだけではなく、「社会課題についてのミニレクチャーと関連する社外ボランティア活動を紹介する」という実践をされている事例もあり、企業ができる「社会の大人への働きかけ」を考えていただけると、相談を受ける人の増加にもつながるのでは、と思います。

14:49:10 開始 A:中島潤\_ReBit に 全員:

「関わられるタイミングやきっかけをつくる」に関連して、（はじめて）相談を受

ける経験を、相談する側も受ける側も、安心してやってみる、ということができる場があると、相談を受ける側の小さな成功体験を経て、継続して行動してくださる人になってくれると感じています。

14:50:17 開始 A:佐藤まみ\_お悩みハンドブック\_グラファー に 全員:

せっかくなのでご紹介させてください！グラファーでは、相談窓口・制度につなげる、という文脈で、支援情報案内サイト「お悩みハンドブック」というウェブサイトを作っております。困っている当事者・力になりたい周りの人・支援機関の職員さんにも、お役立ていただきたいと思って作っております。業務上の利用も完全無料なので、ぜひ相談でお役立ていただけたら嬉しいです🌟

14:50:19 開始 A:佐藤まみ\_お悩みハンドブック\_グラファー に 全員:

<https://www.notion.so/f2dd423c29784b3c856644337f6dbda1>

14:52:00 開始 認定NPO法人D×P今井紀明 に 全員:

連絡網あるのいいですね

14:54:32 開始 B:松本直樹\_ソロメシ・ソロトリ に 全員:

・相談者になりうる人を増やすという観点で、飲食店の方々が孤独を感じる前のとてもライトな話を受け止める役割になってるところはあるのかなと感じました。人に興味関心が高い方も多いので、飲食店の皆様にも場としての価値を高める意味で興味を持ってもらえるような働きかけができると面白いと感じました。

・こういった瞬間に相談したいという気持ちが高まるのか、その瞬間に適切なチャンネルで適切な情報を流せるかどうかも大事なかなと思ったので、そこの整理はされていらっしゃるかもしれませんが、興味を持ちました。

14:54:40 開始 B:松田 妙子 せたがや子育てネット に 全員:

今日はありがとうございました。「相談」と名前をつけた窓口だと敷居が高かたに、日常的に関われる場はとても貴重だと思っています。その場からつないでいただき支援におつながする「コーディネーター」を子育て家庭分野でやっています。多職種で取り組むときには「印籠」が欲しいなと思う時があります。（コーディネーターが知られていない）。当事者はもちろんですが、行政や医療、企業の分野などさまざまなところで気づいてくださる方が増えてくださると嬉しいです。

14:58:55 開始 B 石井綾華 特定非営利活動法人LightRing. に 全員:

支援者になりうる層の方々として、

学校関係者と連携ができるのであれば「医学部や看護学部、心理学部の学生の教育制度の中にピアサポート実習などを取り入れる」ことも提案します。

（フランスの自殺対策研究において、医学部の生徒が自殺対策の現場を理解するために相談員として一定期間従事することが必須とされています。）